



楽一®の特長を生かす栽培方法

住友化学（株）肥料・資材部

1. はじめに

楽一は、倒伏しやすい「コシヒカリ」等の長稈性良食味品種において幼穂形成期の肥効を高め、安定収量・品質向上を目指した革新的な基肥一発肥料です。そのため、慣行栽培とはやや異なった水稻の生育経過とはなりますが、基本的な栽培管理の考え方は変わりません。今回は、楽一の特長を生かすための栽培管理のポイントについて御紹介させていただきます。

2. 植付け本数（栽植本数）について

楽一では、生育初期から分けつの発生が多く、有効茎歩合も高いので、穂数は慣行栽培の約1割増加する傾向があります。そのため、植付け本数が多すぎると、籾数過多によって玄米品質が低下します。実際に、農家圃場の一区をお借りして試験をした結果、8本植え区では、最高茎数・穂数がやや多くなりましたが、一穂籾数が少なく、屑米も多くなった結果、4本植え区より収量も少なくなりました（表1、写真）。そのため、通常は、**60株植えて1株当たり植付け本数は3～5本程度が良いと考えられています。**この株当たり平均3～5本というのは、太植えされている農家さんからみると、実際にはかなり貧相にみえます。

また、機械移植では欠株を恐れて、植付け本数も多くなりがちですが、農家のみなさんが心配されている欠株については、**連続3株以上の欠株が出なければ収量にはほとんど影響しません。**茎数が多い場合は、播種量（乾籾重の目安：100～130g）や使用苗箱数（目安：18～20枚/10a）を確認してみることも重要ではないでしょうか。

表1. 植付け本数の評価試験（茨城県稲敷市 2008年）

植付け本数 (本/株)	穂数 (本/m ²)	1穂籾数 (粒)	精玄米収量 (kg/10a)	屑米率 (%)
4本植え	481	62	519	20
8本植え	619	55	497	33



3. 水管理について

水稲はその名が示す通り、水を上手に活用して栽培する作物です。水は、田植え後の保温、肥料の吸収・移行、雑草および病害虫の防除、分けつの生育制御、登熟促進、収穫の作業性などと密接に関係し、現行の管理方法が確立されてきました。楽一の場合においても、これまでと同様、基本的な水管理の徹底をお願い致します。(図1)。

1. 活着期の水管理 (深水・浅水)

- 活着期は、水温を保つ為、やや深水(水深4~5cm)とし、根の活着を早めます。
- 活着後は水深2~3cmの浅水で管理し、上位節からの「分けつ」の早期確保を図ります。
- また、土壌の還元化も進む為、ときどき田面を露出させて土壌中に酸素を送り込みます。

2. 分けつ期~幼穂形成期までの水管理 (中干し)

- 中干しには、無効分けつの抑制、根の伸長促進、耐倒伏性の強化等の効果があります。
- 中干しの時期は、有効茎数が確保された時が目安です(約23~25本/株)。
- 田面に軽くヒビが入るくらいで(写真1)、極端な中干しは「うわ根」を切断するので避けます(写真2)。実際には、圃場の土質(粘土・砂)により中干しの程度も加減します。

3. 幼穂形成期以降の水管理 (間断灌溉)

- 幼穂形成期には水が多く必要のため、7月上旬までには中干しを止めて徐々に入水します。
- 出穂期には、イネが開花・受精のために水を必要とする時期なので、水を溜めておきます。
- 幼穂形成期~登熟期は入水と落水を繰り返す「間断灌溉」とします(2~3日間隔)。
- 落水は出穂後30~35日とし、早期落水すると登熟不良となりますので注意が必要です。



写真1. 適度な中干し(小さいヒビ)

写真2. 過剰な中干し(過乾燥)

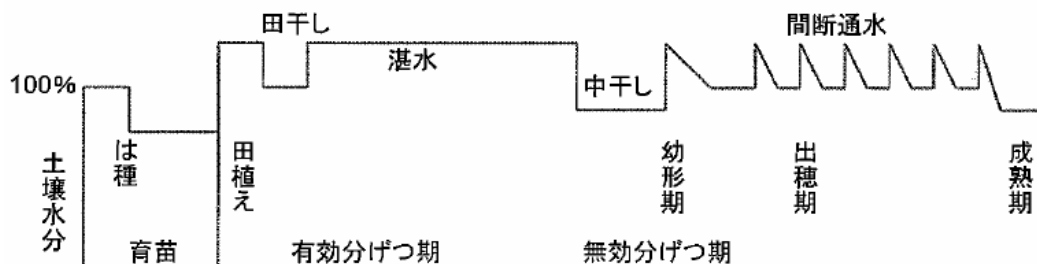


図1. 水稲の一般的な水管理の方法について